

2020年9月16日

川棚町長 山口 文夫様

石木ダム建設に反対するみんなの会

呼び掛け人 中島康, 茂吉隆典, 山本伸裕, 土森武友

連絡先 869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927 土森方

TEL:080-3999-9928 FAX:020-4668-3744

川原住民を守り、石木ダム事業に対する方針転換を求める要請書

九州のマッターホルンと呼ばれる虚空蔵山。そこを源として川原の里を流れる石木川。その流れは川棚川に合流し大村湾に注ぎます。中流域の川原地区は棚田が広がり、初夏にはホタルが飛び交うところです。そのような川原地区での自然と結びついた人々の営みは時の流れの中で幾代にも亘って続けられてきました。

その川原地区を沈める石木ダム構想が持ち上がったのが1962年。佐世保市への水の供給のため、川棚川での洪水防止のため石木ダムが必要だと長崎県や佐世保市は言います。以来、長崎県はダム事業を推進しようとしています。川原地区住民や支援者によって阻止されてきました。

石木ダムの目的は失われています。目的の一つである川棚川の洪水防止については、河床掘削などの河川改修をすれば、過去最大の洪水も溢れずに流せます。もう一つの目的である佐世保市への水道水の供給も、水需要は減少しており、新たにダムの水を引く必要はありません。ダムを造れば、清流と豊穡の海、そして地域社会は破壊されてしまいます。また、想定以上の大雨でダム湖が満水状態になると、ダムは洪水調節が出来なくなり、あふれた水はダム最上部の余水吐き口から放流されます。そのためダムの下流では大雨による水とダム放流の水が一気に押し寄せ、水位が一気に上昇し洪水が発生します。ダムを造ると下流はかえって危険です。

このような無駄で危険で環境破壊のダム建設に長崎県や佐世保市は総事業費538億円（建設事業の総事業費285億円＋関連事業費（取水、導水、浄水等施設設備費）253億円）もの費用を投入し、川原地区住民の生活を奪い、私たちに負の遺産を押し付けようとしています。

川棚町は、長崎県や佐世保市と同様に、ダム推進の立場を取っていますが、本来自治体の本分は住民の生命と財産を守ることにある筈です。

大型公共事業を自らの地域に受け入れる場合は、本当にその事業が住民にとってメリットがあるのかどうか、精査しないとイケません。特に、その事業に関係する住民がその事業の問題点を指摘しているのなら、住民の立場に立って、その事業者の問題点を問いただし、それが解消されるまでは、事業を受け入れるべきではありません。

これまで、川原地区住民は石木ダム事業についての疑問を長崎県や佐世保市に投げかけてきましたが、納得のいく回答は得ていません。であるなら、貴職も住民と共に長崎県や佐世保市から、納得の行く回答が得られるよう努力すべきです。そのようなこともせずに、推進の立場を取るのであれば、町政に対する町民の信頼は地に落ちてしまいます。

貴職に対しては、川原住民を始めとする川棚町民を守る立場から、石木ダム事業に対する推進の立場を見直されますよう要請いたします。

以上